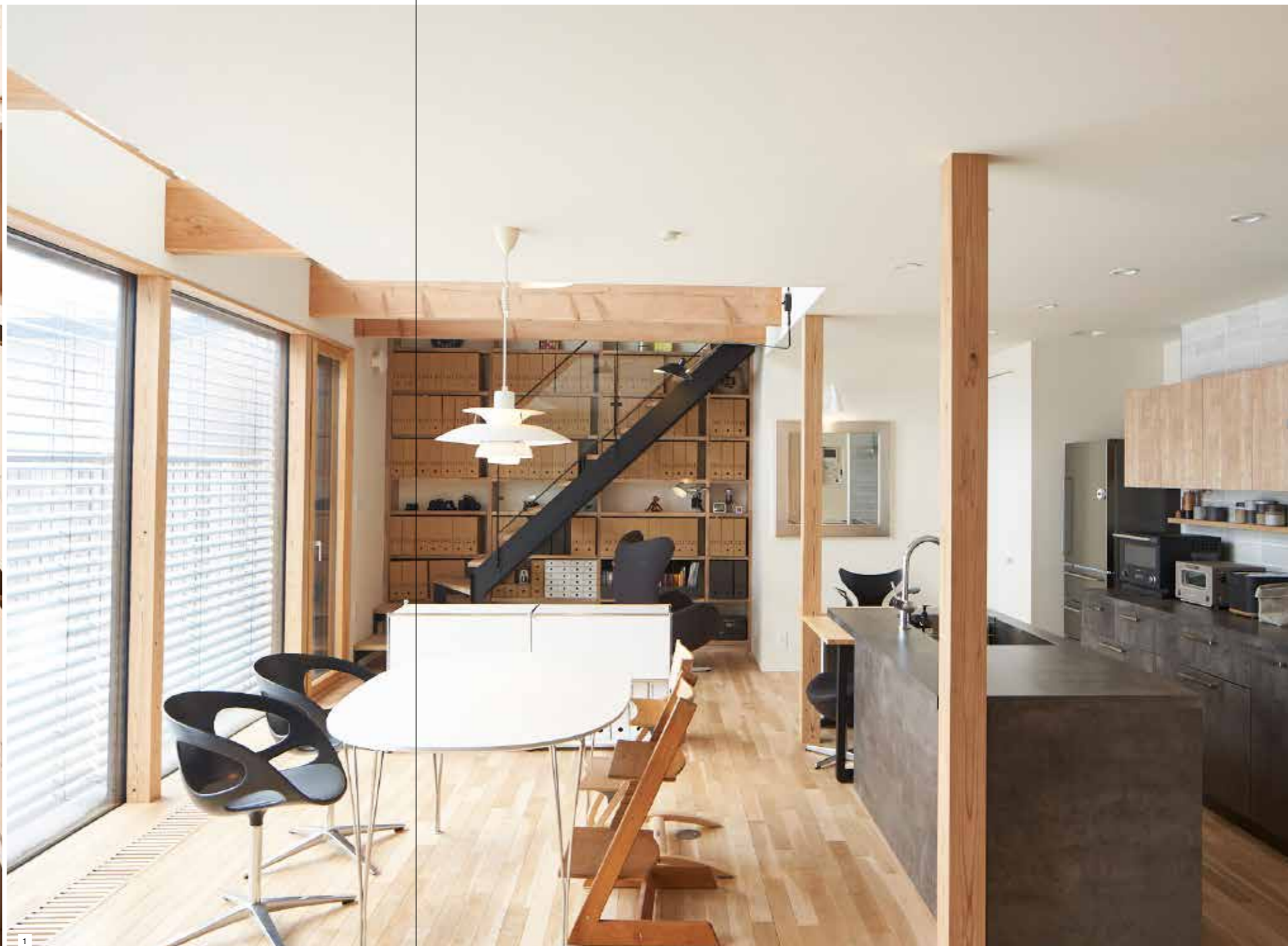


1.曇天の多い秋田の冬でも明るいリビング。明るさと開放感をもたらす大窓は外気温が氷点下でも、ガラス表面は19℃前後に保たれ、窓際でも冷気を感じることはない。2.リビング西側の、天井まで届く造作の書棚が圧巻の眺め。2階に続くスケルトン階段を利用して出し入れすることができる。



16

## 愛着ある名作家具と暮らす 洗練された空間

設計 西方設計 | 秋田市/T邸

夫 (40代) 妻 (40代) 長女 (9) 長男 (6)

### 南

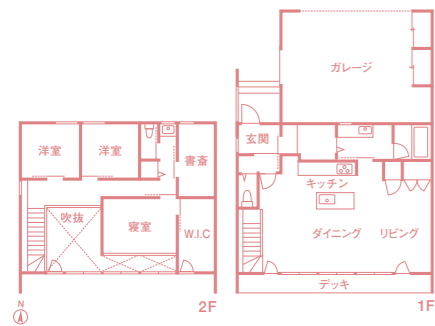
側全面に設けた大窓から日差しが降り注ぐリビング。ソファをはじめ部屋の各所にさりげなく置かれた椅子やキャビネットは、ミッドセンチュリーのデザインで統一されている。施主のTさんが趣味で10年以上かけて集めてきた家具がしっくりとなじむモダンな空間は、雑誌を眺めているような気分に見える。

Tさんの家づくりは、構想から完成まで2年以上を費やした。「こういう家にしたい」という要望をまとめた資料は15ページにも及んだ。南側全体の窓、大窓に面した広いLDK、最高レベルの耐震性能というTさんの要望のなかでも必須条件の3つすべてを満たすのが難しかったのだ。「探したビルダーのうちで『さきます』と言ってくれたのが西方設計でした」とTさんは振り返る。「温熱設計に定評のある設計事務所ということで、基本的な構造についてはお任せでした」とTさん。大切な家具のコレクションを生かすという観点から、Tさんは主にインテリアにこだわった。照明はすべて施工主支給、設置場所も細かく指定した。それを補足するあたりで設計側が照明プランを考えたほどだ。

部屋の雰囲気に合わせて、グレーのキッチンを選んだのは妻のYさ



「西方設計のモデルハウスに通ううちに木の風合いが好きになった」(Tさん)といい、最終的に秋田杉の赤身を縦張りにしたデザインに落ち着いた。



設計 有限会社西方設計 施工 志村建設株式会社  
 竣工 2020/12 構造・工法 木造軸組工法  
 規模 2階建 敷地面積 216.25㎡ (65.41坪)  
 床面積(総) 167.94㎡ (50.80坪)  
 1階 68.45㎡ (20.70坪) 2階 59.75㎡ (18.07坪)  
 インナーガレージ 39.74㎡ (12.02坪)  
 ウッドデッキ 8.55㎡ (2.58坪)

主な設備・断熱性能等

- 暖房の種類/エアコン(電気) ●給湯の種類/エコキュート(電気) ●バス/TOTO サザナ ●トイレ/TOTO ネオレスト,TOTO GG3 ●キッチン/GRAFTEKT デュエ
- 調理器具/IH ●窓仕様(主なもの)/造作カーテンウォール、木製サッシLow-Eトリプルガラス、樹脂サッシLow-Eトリプルガラス ●断熱材/グラスウール、防蟻EPS ●換気システム/第1種換気 ●Q値/0.853W/mK ●Ua値/0.29W/mK ●C値/0.38cm/m

主な仕上げ材

- 床材(主なもの)/無垢材(ナラ、スギ) ●内壁材(主なもの)/和紙クロス ●屋根材/ガルバリウム鋼板 ●外壁材/木材(スギ赤身)

総工費・坪単価

- 建築工事費の総額/3,900万円(税別)
- 坪単価/75~80万円(税別)

西方設計



大きな吹抜けと性能を担保した大開口を設けることで、秋田の暗い曇天でも、ライトシェルフ効果により居住空間に柔らかな光を届けます。1階と2階がつながる大きな空間に、建築が好きなお施主様の調度品が際立つ、快適な住まいとなりました。

<http://www.nishikata.co.jp>

☎0185-52-9606

→ P.135



7



6

3. リビングの壁面全体に設置した収納。日用品のほか床下エアコン、掃除用を入れている。全面をタモ材のルーバーにした渾身の造作で、扉を閉めるとすっきり。4. 2階のホール部分。吹き抜けの現しの梁は秋田杉を使用している。梁と書棚に板を渡すと、南側の窓や窓寄りのファイルボックスにも届く仕組みになっている。5. 西側の吹き抜けからリビングを見る。1階の南側全体がひと間になっており、吹き抜けと相まって明るく開放的な空間だ。キッチンはYさんの希望でGRAFTEKTのものを採用した。豊富なテクスチャーとカラーバリエーションが魅力の高機能メラミン材「エバルト」を使用し、傷や汚れに強く手入れもしやすいという。6. 吹き抜けに面した2階寝室。「オープンな感じに」という要望で、浮遊感のある仕上がりとした。7. 玄関ホール。南側がリビング、東側が玄関収納を通して洗面、浴室につながる。収納手前に吊り扉があり目隠しになる。8. 2階は寝室と個室を配置。Tさんの書斎には家具のコレクションが収めてあり、出番を待っている。



8



4



3

んだった。レイアウトはコンロとシンクのカウンターを並行にしたII型を採用。作業スペースが広く動きやすいという。

T邸はオープンな間取りを生かした温熱設計により、四季を通じて快適な室内環境が保たれている。真冬も薄着で過ごすのがTさん一家の日常になった。寒冷地である秋田で、南側の窓でありながらこれだけの温熱環境を確保できるのは、サッシの断熱性能の高さとそれを十二分に生かす西方設計が積み重ねてきたノウハウの賜物だ。「住んでいて、快適なのが当たり前になっています。外に出て初めて、今日は寒いなど気づくほど」と、Tさんたちは温熱環境の良さが住み心地の良さにつながっていることを実感している。大切な家具とともに、思い描いていた通りの暮らしができています。



5